

中京大都市圏づくり



愛知県では、大都市名古屋を中心に社会的・経済的な結びつきが強く、
一体性の強い産業集積を有するエリア（名古屋を中心とした概ね 80km～100km 圏）を
「中京大都市圏」と位置づけ、世界と直結する一大産業拠点としての役割を担っていくとともに、
この地域の多様な魅力を発信しながら、国内外から人・モノ・カネ・情報を呼び込み、
世界の中で存在感を発揮できる大都市圏づくりを進めています。

中京大都市圏

国内外から人・モノ・カネ・情報が集まり、活発な交流が展開されるためには、圏域内の総合的な交通ネットワークを充実するとともに、世界との直結性を高め、アジアの大都市圏との競争に負けないインフラ環境をつくっていくことが必要です。また、名古屋都心部への高次都市機能の集積を図るとともに、圏域内の主要都市において、地域の特色を活かした機能集積を図り、リニア開業のインパクトを圏域全体で受け止めていくことが重要です。さらには、こうした取組を自主的・自立的に実施できるよう、国からの権限・財源の移譲を求めていくとともに、この地域の中心都市である名古屋市と愛知県がベクトルを合わせた取組を進めていくことが必要です。

愛知県では、リニア中央新幹線の整備促進と40分交通圏の拡大、広域道路ネットワークの整備、空港・港湾の機能強化、名古屋都心部への高次都市機能の集積、主要都市等の機能充実などに取り組んでいます。また、地方分権や中京圏構想の推進など、自立する大都市圏に向けた取組を進めています。

リニア中央新幹線の整備促進

東京都-名古屋市間を時速500km、約40分で結ぶリニア中央新幹線は、2027年度の開業に向けて、2016年12月に名古屋駅で着工するなど、愛知県内においても本格的な工事が始まっています。愛知県では、着実に事業が進むよう、国・関係機関への働きかけや事業推進に必要な調整を行っています。



リニア中央新幹線 (イメージ)

©Central Japan Railway Company. All rights reserved.

主要幹線道路網の整備

名古屋港への重要なアクセス道路である名古屋環状2号線の整備や、三河港と輸送機器等の生産拠点を結ぶ名豊道路の整備等を加速するよう、国への働きかけを行っています。

また、名古屋高速道路を経由して名古屋都心部と中部国際空港を最短で結ぶ西知多道路の早期全線開通に向けて、国と連携して事業を進めています。



名豊道路 (蒲郡IC)



名古屋港の機能強化

中部地域のモノづくり産業を支える港湾として、飛鳥ふ頭東側のコンテナ取扱機能の強化に向けた岸壁整備や、

金城ふ頭の完成自動車取扱機能の強化に向けた岸壁整備など、「国際産業戦略港湾」としての機能強化に取り組んでいます。



名古屋港 (飛鳥ふ頭東側)

名古屋港管理組合提供



中部国際空港

中部国際空港株式会社提供

中部国際空港の機能強化

二本目滑走路を始めとする機能強化の早期実現に向けて、国への働きかけ等を行うとともに、エアポートセールスやアジア地域をターゲットとしたインバウンド旅客誘致事業等を実施するなど、地域が一丸となって、航空ネットワークの拡充と航空需要の拡大を図っています。

名古屋駅のスーパーターミナル化と名古屋駅周辺まちづくり



名古屋駅周辺

photo by miy@t

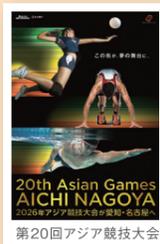
リニア中央新幹線の開業に向け、名古屋駅周辺では、民間事業者による再開発が進んでいます。愛知県では、名古屋市や民間事業者等と連携し、中京大都市圏の玄関口となる名古屋駅のスーパーターミナル化や、名古屋駅周辺のまちづくりを始め、名古屋都心部の高次都市機能の集積を図る取組を進めています。

文化・スポーツ・魅力発信

中京大都市圏を実現していくためには、国内外から人を惹きつける魅力やその発信が不可欠です。愛知県では、「あいちトリエンナーレ」など文化芸術の国際的なイベントの開催、2026年の「第20回アジア競技大会」など国際的・全国的なスポーツ大会の招致・開催、武将観光・産業観光の推進、伝統文化・食文化等のPRなどに取り組んでいます。

第20回アジア競技大会の開催

2016年9月、愛知・名古屋での「第20回アジア競技大会」(2026年)の開催が決定しました。アスリートファーストの視点を踏まえながら、簡素で質素な、そして機能的で合理的な大会とし、国際スポーツ大会の「愛知・名古屋モデル」を作ることをめざすなど、名古屋市と共に開催準備に全力で取り組んでいます。



第20回アジア競技大会

山車文化の発信

2016年12月に日本の「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産への登録が決定しました。全国で登録された33件のうち、愛知県内には5件が所在し、全国最多となっています。愛知県では、山車まつりの保存団体・所在市町・県で構成する「あいち山車まつり日本一協議会」において、山車まつりの保存・継承を図るとともに、日本一の山車文化を積極的に発信しています。



あいち山車まつり日本一協議会

グローバル展開



この地域の強みである圧倒的な産業集積を生かしながら、世界に開かれた大都市圏として発展していくためには、海外から企業や人材を呼び込み、活発な交流を促進していくとともに、来訪する外国人が快適に過ごせる、暮らせる魅力ある環境づくりを進めていく必要があります。

愛知県では、国際見本市・国際会議の誘致・開催や外資系企業の誘致、海外とのパートナーシップの構築、外国人留学生の獲得と地域定着の促進、外国人が暮らしやすい環境づくりなどに取り組んでいます。



海外とのパートナーシップの構築

愛知県では、グローバルな経済・社会の動きに的確に対応していくため、新たな国・地域とのパートナーシップの形成を図っています。2016年度は、アメリカ・テキサス州及びワシントン州、ベトナム・ホーチミン州と「友好交流及び相互協力に関する覚書」を、インドネシアの経済担当調整大臣府と「経済交流に関する覚書」を締結しました。



アメリカ・テキサス州との覚書締結

愛知県国際展示場の整備

2019年秋の開業に向け、空港島に日本初の国際空港隣接型となる展示面積6万㎡の「愛知県国際展示場」を整備します。

この展示場で、2020年に国が初めて開催するロボットの国際的な祭典「ワールドロボットサミット」が開催されます。また、周辺地域では、空港の新たな複合商業施設や新ターミナルの整備、新規ホテルの立地などが相次ぎます。空港島及び周辺地域が、新たな交流、賑わい、集客の拠点となるよう取り組んでいきます。



愛知県国際展示場 (イメージ)



リニアを生かし、世界の中で存在感を発揮する中京大都市圏

中京大都市圏の実現に向けて、愛知県は、

中長期的な観点から愛知の進むべき

方向性を明らかにした「あいちビジョン2020」に沿い、

重要政策課題「中京大都市圏」に位置づけた交通基盤・都市基盤の整備を始め、

「グローバル展開」「産業革新・創造」「文化・スポーツ・魅力発信」

などの取組を進めています。

産業革新・創造

中京大都市圏が世界と直結する一大産業拠点としての役割を担っていくためには、産業競争力の更なる強化が必要です。

愛知県では、「知の拠点あいち」における研究開発の推進、豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業など自動車産業の高度化支援、「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」の推進等による航空宇宙産業の振興、ロボット産業、健康長寿産業、環境・新エネルギー産業の育成などに取り組んでいます。

自動車産業の高度化

自動車産業の新たな研究開発拠点となる豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業を推進するとともに、電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)及び燃料電池自動車(FCV)に対する自動車税の課税免除や、水素ステーションの整備・運営に対する支援、自動走行の実証実験の実施・支援などにより、次世代自動車の普及を図っています。



FCV [MIRAI]の組立工程

また、産学行政で構成する「自動車安全技術プロジェクトチーム」において、自動車安全技術の開発・普及啓発等に取り組んでいます。

航空宇宙産業の振興

中部地域は日本の航空機・部品5割以上、機体部品の約8割を生産する国内最大の航空宇宙産業の集積地です。愛知県では、国際戦略総合特区「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」の活用等により民間企業の設備投資を支援しています。

また、国産初のジェット旅客機MRJが開発・生産される県営名古屋空港周辺地域を、人材育成の場・産業観光の場とすることをめざし、その中核となる拠点施設として「あいち航空ミュージアム」の整備を進めています。



あいち航空ミュージアム (イメージ)



国土政策フォーラム in 愛知

「我が国の成長を牽引する中京大都市圏づくり」

～対流を湧き起こすスーパー・メガリージョンのセンターを目指して～

■ 愛知県・国土交通省国土政策局・国土交通省中部地方整備局・中部圏広域地方計画協議会 主催 ■ 平成 29 年 1 月 31 日 名古屋・今池ガスホール

リニア中央新幹線の全線開業によって、三大都市圏が一体化し、人口 7 千万人を擁する世界最大のスーパー・メガリージョンの形成が期待されています。中京大都市圏には、そのセンターとして、中部圏ひいては我が国の成長を牽引していくことが求められています。中京大都市圏づくりに地域を挙げて取り組んでいくため、中京大都市圏づくりについて考えるフォーラムを開催しました。

主催者あいさつ



人口減少問題に対応するためには、コンパクト+ネットワークの中で対流を起こしていく必要がある。その中心的な役割を果たすのがスーパー・メガリージョンであり、その中で中部の果たす役割が極めて大きい。



この地域を日本の成長のエンジンとしていくために、これからも皆さんと一緒に、しっかり連携して、中京大都市圏づくりを進めていきたい。



世界情勢の目覚ましい変化や首都圏の積極的な整備がみられる中、地域が一体となり、スピード感をもって、実効性のある取組や変革を進めていく必要がある。

基調講演 「中京大都市圏づくりにおける愛知県の取組について」

愛知県知事 大村秀章



- 名古屋からの 2 時間圏人口は、リニア中央新幹線の東京都ー名古屋市間の開業で約 6 千万人、全線開業で 6 千 4 百万人となり、リニア開業インパクトはこの地域が最も大きい。
- 名古屋駅のスーパーターミナル化や広域道路ネットワークの整備、空港・港湾の機能強化などにしっかり取り組んでいく。その上で、自動車産業の高度化、航空宇宙産業の振興、愛知県国際展示場の整備、武井観光・産業観光の推進、第 20 回アジア競技大会の開催などに取り組む、中京大都市圏づくりを総合的に推進する。
- 中京大都市圏の産業集積をさらに生かして、元気な地域づくりをしていきたい。

パネルディスカッション

「我が国の成長を牽引する中京大都市圏づくり」～対流を湧き起こすスーパー・メガリージョンのセンターを目指して～

コーディネーター



学校法人梅村学園理事
中京大学学術顧問
奥野 信宏氏

- 広域地方圏において、日本海側と太平洋側の広域連携が国土政策の主要なテーマになっている。東海と北陸が連携すれば、非常に強力な地域になる。それがスーパー・メガリージョンである。
- リニアのインパクトをどう受け止めていくか、悩んでいる都市もある。愛知県、中部経済連合会、中部地方整備局などは都市、広域圏にアドバイスをを行い、連携して取り組んでいきたい。



パネリスト



中京大学経済学部客員教授
学校法人梅村学園評議員
内田 俊宏氏

- 次世代自動車、航空宇宙、ロボットなど全ての次世代製造業が中部に高い集積を誇り、この地域が我が国の経済成長を牽引していくことは間違いない。首都圏と名古屋圏の融合によるシナジー効果が次世代のモノづくりの鍵となる。
- 中京大都市圏のワーク・ライフ・バランスの良さを前面に出すとともに、アジア大会やリニア開業を機に魅力あるまちづくりを推し進め、内外への PR を通じ、都市のブランドイメージを高めていくことが重要である。



(一社) 中部経済連合会
専務理事
小川 正樹氏

- 中京大都市圏は、モノづくりにおける交流イノベーション拠点の創出、日本版 DMO による観光戦略、交通インフラを生かした物流拠点の整備促進、定住促進により、ポテンシャルを生かした魅力づくりを進めていく必要がある。
- 中部国際空港の二本目滑走路の整備やリニア周辺の広域インフラの整備に加え、東海道新幹線の活用など既存のネットワークの効率的な利用を強力に推進していく。



愛知大学地域政策学部教授
戸田 敏行氏

- 中京大都市圏は、名古屋と自立した周辺の都市圏による都市連合の形で、相互に補完しあいながら発展していくことが望ましい。
- 三遠南信自動車道の整備や JR 飯田線の活用など、三遠南信地域の南北方向の繋がりの強化等が重要である。豊橋・浜松環状道路の整備による豊橋市と浜松市を中心とする 100 万超の都市圏の形成や、リニア開業後の東海道新幹線の利活用・沿線地域の連携も重要である。



国土交通省中部地方整備局長
塚原 浩一氏

- 中部の発展を支えるためには、安全・安心な基盤が必要である。中部圏は災害時における社会経済活動の継続性の確保、ネットワークの多重性や代替性が課題であり、東西軸に加えて、北陸圏との連携・代替機能の補完など南北軸の取組が重要である。
- リニア効果を広域的に波及させるための「陸・海・空」の交通ネットワークの充実が重要である。

愛知県政策企画局企画課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目 1 番 2 号 TEL.052-954-6472 (ダイヤルイン)

中京大都市圏づくりポータルサイト

<http://www.pref.aichi.jp/kikaku/chukyodaitosiken/index.html>



発行：平成 29 年 3 月

